Shimadaizm News

Vol. 22
2016.1

オンリーワンのキャリアへの道

あけましておめでとうございます

CONTENTS

- 平成27年度　医師臨床研修マッチング結果について
- 新専門医制度「決定 モデルプログラム内科編」
- 未来医療研究人材養成拠点形成事業
  「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」
  シンポジウムを開催しました
- 研修医室から
- 私の履歴書
- 行事のお知らせ
- 診療科等紹介コーナー

平成27年度　医師臨床研修マッチング結果について

卒後臨床研修センター長　鬼形　和道

平成27年度の医師臨床研修マッチングの結果を報告します。本院の研修プログラムの内定者は21名ですが、大学病院プログラム（6名）、たすきがけプログラム14名（県立中央病院5名、松江赤十字病院4名、浜田医療センター1名、県外4名）、および産婦人科重点プログラム1名でした。今年のマッチングの特徴は、大学病院とたすきがけ（県外）プログラム、そして県外出身者の増加です。平成29年度からスタートする新専門医制度に対する取り組みと、本院の研修プログラムが高く評価されたのではないでしょうか。病院スタッフ全員で国家試験の合格を祈願し、そして彼らをサポートしましょう。

新専門医制度「決定 モデルプログラム内科編」

第4回

卒後臨床研修センター 副センター長　石橋　豊

専門医制度の改変もいよいよ大詰めです。
今後のスケジュールの概略は、

2016年6月専攻医募集開始
2016年9月第1回採用試験
（採用に至らない場合、年度末まで複数回の採用試験）
（受験は1つの研修プログラムに限り、複数領域の応募は認めない）
2017年4月各研修プログラム開始
2020年4月以降新専門医第一号誕生

19の基本領域の研修モデルプログラムは、平成27年12月18日時点で眼科、救急科、総合診療科を除く16のモデルプログラムが日本専門医機構HP上に発表された。未発表の3診療科についてもすでに審議中で12月中には公表予定である。HPを見ると、それぞれのプログラムに一般型、地方大学型、都会大学型、地方総合病院型、地域型と表示があり、これは研修病院の地域性を考慮したものであるが、各プログラムにより表現がばらばらで内容を詳細に見ないと分かりにくい。特に、基幹施設、連携施設での勤務期間がそれぞれ異なっており、プログラム選択において十分な吟味が必要である。

内科モデルプログラムについて

地方型一般病院と都市大学型（島根大学プログラムはこれに相当）の2つのモデルプログラムがある。2つのモデルの相違点は、基幹施設が一般総合病院であるか、大学附属病院であるかの違いで研修カリキュラムには大きな違いはないが、大学病院の場合は、いずれかの医局に所属しての研修スタイルとなる。

★研修期間は3年で、内科一般コース（3年内科全般）、サブスペ重点コース（3年の内1年をサブスペ研修とオーバラップ）がある
★3年の内1年以上は連携施設で研修
★総合内科（初診+再診）外来診療を3年間で1回/週、6ヶ月以上
★内科13領域（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急）
★主担当医として70疾患群200症例以上を経験目標として、56疾患群、160症例の経験、29症例の病歴要約の適正評価、1例剖検症例、2例外科紹介症例、2編の学会発表または論文発表、JMECC受講が研修終了条件
★研修2年終了時に45疾患、120症例、29症例の要約を提出し審査を受ける
★初期研修（特に2年目）の症例は、内科指導医の直接指導を受けた53症例、9症例要約を上限として研修プログラム統括責任者の承認を得た症例に限る

2017年に始まる専攻医研修であるが、最初の2年で目標の6割（要約は29症例全て）を終了する必要があり、専攻医にとってはかなりハードルが高い。研修進捗状況の把握と適切な指導が必要となる。これから続々と各施設でのプログラムが提示され、更には各入局先のカリキュラムが提示される。常に情報収集を心がけておきたい。島根大学では、卒後臨床研修センターを窓口として随時情報提供しているが、直接面談も行っているのでいつでも相談頂きたい。

未来医療研究人材養成拠点形成事業「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」シンポジウムを開催しました

平成27年10月4日（日）、「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」シンポジウム
地方におけるリサーチマインドを持った総合診療医の養成ー自治医科大学と県・地方大学の連携のあり方ーを開催しました。

地域医療政策学講座　教授　廣瀬　昌博

「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」プログラムの目的の一つに、多様化、複雑化するケアニーズに適切に対応できる総合診療医の養成があります。一方、大学創設以来これまで総合診療医「的」診療を実践してきた自治医科大学の存在があります。

シンポジウムでは、自治医科大学と新潟県、岩手県との良好な連携について、自治医科大学地域医療学センター長・梶井英治先生、新潟大学総合地域医療学講座教授・井口清太郎先生、岩手医科大学心血管リサーチセンター長・伊藤智範先生から実情が報告され、加えて、島根県健康福祉部医療統括監木村清志先生、本学地域医療支援学講座教授・谷口栄作先生から現状報告がありました。

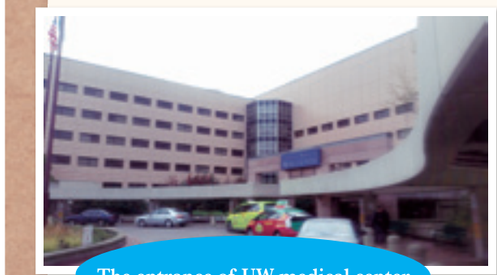
以上の報告をもとに、自治医科大学や県、地方大学との実情や情報を共有し、島根県における総合診療医の養成とともに医師確保について、自治医科大学と島根県、島根大学との連携強化に向けて活発な議論が交わされました。

研修医室から

2年次研修医 片岡祐俊先生から
ワシントン大学（ワシントン州シアトル）研修報告です。

Medical practice in Seattle（Oct 25 ～ Nov 14）

I've been in UW Seattle to study US internal medicine and education system.
Working, studying, talking, watching, everything really inspires me! Now the report is unveiled. Here you go!


The entrance of UW medical center

Morning conference

Sightseeing with Dandi, Aya and Kanae. (medical students)

Big cake!!

Taking part in ACP conference (Academic conference)

Our host, Dr.Paauw. Good smile! Happy birthday!

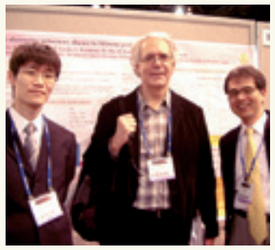
アメリカと日本とで、様々な違いがありましたが、特に印象に残ったことは、アメリカはチーム医療が確立しており、ひとりの患者さんに複数の先生から治療方法や意見が提示されることでした。お互いがそれぞれの強みを最大限発揮して診療にあたっている姿が印象的でした。

私の履歴書 Part.19

- 呼吸器・化学療法内科 助教　濱口　俊一先生
- 出身大学名／島根大学
- 取得専門医名／気管支鏡専門医

私は三重県津市出身ですが、平成12年に当時の島根医科大学に入学し、平成18年に卒業し、ここで2年間の初期研修を終えて呼吸器・化学療法内科に入局しました。卒後3年目に3か月間県立広島病院救急科で研修を行い出雲にもどり、島根大学呼吸器・化学療法内科で引き続き研修を行いました。その後、平成23・24年度にここの救急部所属となり、平成25年度から呼吸器・化学療法内科に復帰しています。いつの間にやら出雲に来て16年目となりすっかり出雲人となっています。また医師10年目となり診療への携わり方も研修医のころとは大きく変化しているのを実感しています。

自分は呼吸器の画像診断に興味があったのがきっかけで呼吸器科医となりましたが、それは呼吸器診療の一部にすぎませんでした。呼吸器疾患は全身に影響が及ぶものが多く、呼吸管理・全身管理との関わりが深いため、その技術・知識は救急外来でも大いに役立つものでした。呼吸器疾患を診るということは全身を診ることができる、これは呼吸器・化学療法内科に入局した後に気が付いたことですが、呼吸器科医の大きなメリットだと思っています。



学ぶべきことが多く、まだまだ発展途上の身です。昔、「医師は10年経てば一人前」と聞いた記憶がありますが、どうも自分にとっては真実ではないようです。これからも日々精進し、島根の医療に貢献できるように微力を尽くしたいと思います。

行事のお知らせ

	開催日時	開催場所	開催名
1月	1/ 8(金)	クリニカルスキルアップセンター	院内BLS
	1/13(水)10:30～	みらい棟4Fギャラクシー	第2回 島根・セメイ国際シンポジウム
	1/21(木)19:00～	臨床小講堂	第4回漢方講演会
	1/27(水)15:00～	みらい棟4Fギャラクシー	第11回 鑑別診断道場
2月	2/10(水)18:00～	みらい棟	地域医療セミナー
	2/12(金)	島根大学医学部内	しまね研修ナビ
	2/12(金)	クリニカルスキルアップセンター	院内BLS
	2/13(土)8:15～	みらい棟4Fギャラクシー クリニカルスキルアップセンター	第1回島根PTLS

	開催日時	開催場所	開催名
2月	2/19(金)19:00～	臨床小講堂	第5回漢方講演会
	2/26(金)～2/27(土)	鳥取県内	中四国フォーラム
	2/27(土)～2/28(日)	みらい棟4Fギャラクシー	総合医セミナー
3月	3/11(金)	クリニカルスキルアップセンター	院内BLS
	3/11(金)PM	みらい棟4Fギャラクシー	春季地域医療実習報告会
4月	4/1(金)～		オリエンテーション
	4/5(火)17:00～	附属病院食堂ラパン	新入生説明会・意見交換会
	4/8(金)	クリニカルスキルアップセンター	院内BLS

診療科等紹介コーナー

当科のここが自慢!!

小 児 科

小児科の一番の自慢は“子ども”です。「子どもの診療は怖い」と感じている学生や研修医は少なくないようです。でも、大丈夫！初めから不安がない人はいません。子育てと一緒です。子どもを一生懸命育てているつもりでも、実は子どもが親を育ててくれている。感情豊かな子ども達との出会いが、小児科医を育ててくれます。

「究極の予防医学“新生児マススクリーニング”」、「食べて治す食物アレルギー“経口免疫療法”」、「脳波もモニタリング“長時間ビデオ脳波”」「2013年にスタート“小児先天性心疾患手術”」等、その他の島根大学小児科の自慢にも興味がある人は、ぜひ小児科に話を聞きにきて下さい！！

当科のここが自慢!!

輸 血 部

輸血部は、輸血医療を安全かつ適切に行うことができるように24時間体制で臨床検査技師さんとともにサポートさせて頂いています。また、看護師さんによる自己血貯血、大量出血時に止血目的で使用されるクリオプレシピテートの運用、末梢血造血幹細胞移植に用いる造血幹細胞採取・細胞保存を行っており、輸血・細胞治療に関して包括的に支援させて頂いています。さらに、感染症の迅速診断、間葉系幹細胞を用いた再生医療、iPS細胞を用いた難治性疾患の病態解明などの先進的な研究を他の診療科の先生や輸血部のスタッフと協力して行っています。目の前の日常診療から世界に発信できる研究まで行っている輸血部へぜひ気軽に来て下さい！

編集後記

あけましておめでとうございます。2016年最初の「研修医室から」は、ワシントン大学の研修報告を掲載しました。ニュース発行以来、初めての英語の誌面です！海外研修の様子の写真もたくさんいただき、いつもと少し違った国際色のあるニュースに仕上がりました。片岡先生、ありがとうございました。
次回は、4月発行予定です。

島根大学医学部　キャリア形成支援部門

地域医療教育学講座　地域医療支援学講座　総合医療学講座
地域医療政策学講座　卒後臨床研修センター
クリニカルスキルアップセンター　病院医学教育センター

発　　行／島根大学医学部キャリア形成支援部門　卒後臨床研修センター
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
お問合せ／TEL：0853-20-2006　FAX：0853-20-2375　E-mail：sotsugo@med.shimane-u.ac.jp